

授業時数の確保と部活動の再開について

学校が再開し、3週間目に入りました。ここ数日は気温の高い日が続いています。6月1日（月）から部活動も再開し、活動時間や練習内容にはまだまだ多くの制限があり、手洗い・消毒等を実施しながらですが、土日も含めて、生徒の体調等を考え併せ、実施をしていきたいと思えます。

さて、本校では3月以降の臨時休業にともなう学習の遅れについては、県教育委員会から例示された教育課程の見直しモデルプランを参考に、次のような方法で対応していきます。

◆教育課程の見直しをします。

- ・国語・数学・社会・理科・英語の学習内容は削減しません。（3～5月の未履修についても学習します。）
- ・総合的な学習の時間、道徳、学級活動の内容・時間数を精選します。
- ・原則、月曜日に6校時授業を行います。

◆学校行事の精選や内容・取組時間を見直します。

- ・青雲祭 9月15日（火）文化部門、16日（水）体育部門
- ・修学旅行（3年生） 9月24日（木）～26日（土）
- ・山梨探訪（2年生） 9月25日（金）～26日（土）

◆夏休みを次のように短縮します。〔夏季休業：8月1日（土）～8月18日（火）〕

- ・1学期終業式 7月31日（金）給食あり
- ・2学期始業式 8月19日（水）給食なし

青雲祭については、9月15日（火）に文化部門を、16日（水）に体育部門を行う予定でいます。詳細についてはまたお知らせいたしますが、文化部門は各クラスの発表を合唱中心に行い、体育部門についても競技内容の検討を現在行っています。3年生の修学旅行は公共交通機関を利用しない方向で行い、2年生の山梨探訪については宿泊をしない方向で調整を進めています。体育部の全国、関東大会は中止となり、吹奏楽部や合唱部についても各種大会が中止となっています。県小中体連では県総体実施を検討しており、吹奏楽部や合唱部など文化部には、青雲祭や校内での発表の機会をつくるなど、関係機関と連携しながら、本校では3年生の集大成の場を設定したいと考えています。詳細についてはまた連絡をさせていただきます。ご理解の程よろしく願いいたします。

中国四川省・都江堰（とうこうえん）市との絆

本校では平成6年度から中国四川省にある都江堰（とうこうえん）市の都江堰（とうこうえん）中学校と友好国際交流学校（友好国際姉妹学校）の締結をしています。これまで互いの学校を訪問し、友好関係をつくってきました。また、平成20年5月12日に発生し、多くの死傷者をだした中国・四川大地震の際には、本校生徒会を中心に義援金を集め、都江堰市へ送っています。このように、中央市と都江堰市、田富中学校と都江堰中学校の絆が多くの年月をかけて育まれてきました。今回、新型コロナウイルス感染拡大のため、緊急事態宣言や臨時休校等の報道を聞き、都江堰市から中央市の田富中学校・玉穂中学校へ計2000枚のマスクを送っていただきました。

マスクを送っていただいた都江堰市への感謝の気持ちと、仲立ちをしていただいた中国人民対外友好協会の方々への感謝と、世界中の人々が早く新型コロナウイルスを克服し、安全安心な生活が戻り、マスクや多くの制限のない生活を送ることができるようにと、生徒会役員を中心にメッセージ動画を作成し、お礼の手紙と共に送りたいと思います。メッセージ動画については学校ホームページでもご覧いただけるようにしていきます。



今年度のPTA 活動について

6月3日（水）臨時休校の影響で延期していた今年度のPTA活動をスタートさせていただきました。校長室には新旧の正副会長さん方にお越しいただき、今年度のPTA活動について検討を行い、例年とは違う形ではありますが、スタートしていくことを改めて確認させていただきました。また、地区役員会、学年委員・学級役員の選考会、専門部会も開催させていただきました、それぞれの代表の方々の決定や年間の運営方針、計画について審議をしていただきました。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。



今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、第1回学校委員会やPTA総会については紙上提案とさせていただきます。学校委員のみなさんに、今年度のPTA活動に対しまして、6月8日（月）に書面で提案、それを受けて全家庭に15日（月）に書面でのPTA総会とさせていただきます。例年とは違う学校教育活動を余儀なくされるこの難局に、鮎澤信幸新会長を中心に保護者の方々に支えていただきながら、全校生徒のために共に頑張っていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

“朝読書”について

本校では4年前から朝の8:25～8:35まで10分間の朝読書を全校で行っています。毎朝、どの学級でも静かに朝読書から学校生活がスタートします。本当に素晴らしい取組だと思います。読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものです。山梨日日新聞（2018.6/18付）にも『読書や生活習慣で子どもの成績向上』という記事がありました。なぜ「読書」がよいのかについて、次のような文章を見つけました。紹介したいと思います。

「自分を育てる力」を読書でつける

大塚笑子（朝の読書推進協議会理事長）

「私は子供の頃から陸上が得意で、中学生の時には三種競技で全国4位になりました。将来のオリンピック候補とテレビでもチャホヤと持ち上げられていたんです。ところが、高校時代、練習で股関節を外す怪我をしてからというもの、鳴かず飛ばずの状態になってしまいました。期待されていただけに落ち込みも激しく、死にたいな、生きているのが辛いなとそればかりを考えて生きる毎日でした。実際、胃潰瘍で3か月入院したこともあります。

そういう時、兄が病院に見舞いに来て、宮澤賢治の詩集と石川啄木の歌集を置いていってくれました。賢治が死にゆく妹の姿を綴った『永訣の朝』の詩と、啄木の『死ぬことを持葉をのむがごとくにも我はおもへり心いためば』の歌に触れた時、それまで死にたいと思っていた私が、『世の中にはもっと大変な人がある』と気づかされたんです。窮地から這い上がることができたのは、そこからですね」

自らも読書で人生が変わったと語られている大塚さん。お兄さんからの「本は暇な時に読むものではない。苦しい時にこそ読むんだ。自分で自分を高めなくて誰が高めてくれる」という言葉も、深く心にとどめてこられたそうです。

「私が好んで読んできたのは、山岡荘八や山本周五郎、杉本苑子の歴史小説でした。徳川家康などの主人公の生き方もそうですが、その当時、必死で生きてきた女性たちに思いを馳せ、『この人たちにできて私にできないはずがない』と自身を奮い立たせてきたんです。人生というのは何か起きて自分で立ち上がるしかありません。本は私にその力を与えてくれました」（『致知』2018年10月号 特集「人生の法則」より一部抜粋）

